

サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

豊田通商グループは、経営戦略に基づいて注力していく社会課題を明確にするため、企業理念・Global Visionの実現を目指す上で意識すべき6つのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）を特定しています。

マテリアリティは、本部戦略に織り込まれ、各本部がサステナビリティ推進委員会で進捗を報告し、変化する国際社会の動向や、豊田通商グループの環境変化などを踏まえ、

適宜見直しを実施しています。

また、当社の事業活動が持続的な開発テーマに与える影響を見える化するため、マテリアリティ毎に中期のKPIを定め、PDCAを回しています。

社員一人ひとりがこのマテリアリティを意識して事業活動に取り組むことで、会社も社員も持続的に成長し、社会課題の解決やSDGsへの貢献につなげています。

豊田通商グループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

社会課題の解決と会社の成長を両立する最重要課題

交通死傷者ゼロを目指し、安全で快適なモビリティ社会の実現に貢献



クリーンエネルギーや革新的技術を活用し、自動車／工場・プラントCO₂を削減することで、脱炭素社会移行に貢献



廃棄物を資源化することで、モノづくりを支え、循環型社会に貢献



豊田通商グループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

アフリカをはじめとした開発途上国と共に成長し、事業を通じて社会課題の解決に取り組む



会社の成長を支える土台となる最重要課題

安全とコンプライアンスの遵守をビジネスの入口とし、社会に信頼される組織であり続ける



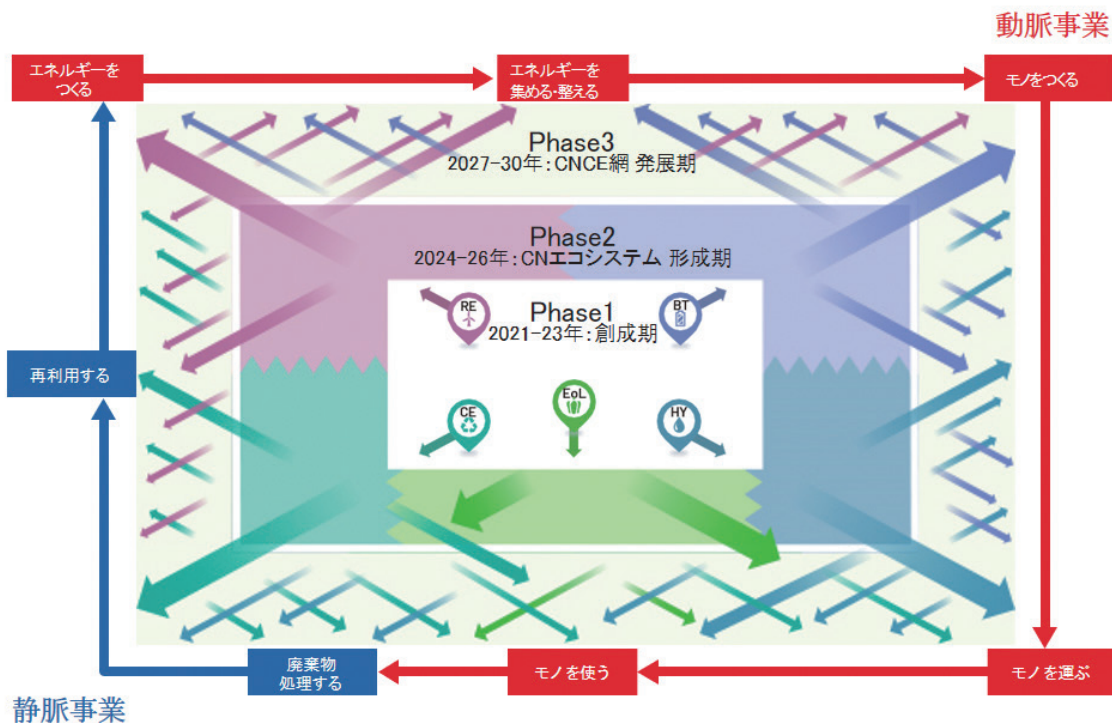
人権を尊重し、人を育て、活かし、「社会に貢献する人づくり」に積極的に取り組む



カーボンニュートラル実現への取り組み

～カーボンニュートラル戦略マップ～

豊田通商グループは、強みを有する5つの領域において思い切ったリソースの投入を行うべくワーキンググループ（WG）を組成し、2030年までに1.6兆円の投資を行ってまいります。



CN：カーボンニュートラル CE：サーキュラーエコノミー

RE 再生可能エネルギー・エネルギーマネジメント WG

BT バッテリー WG

HY 水素・代替燃料 WG

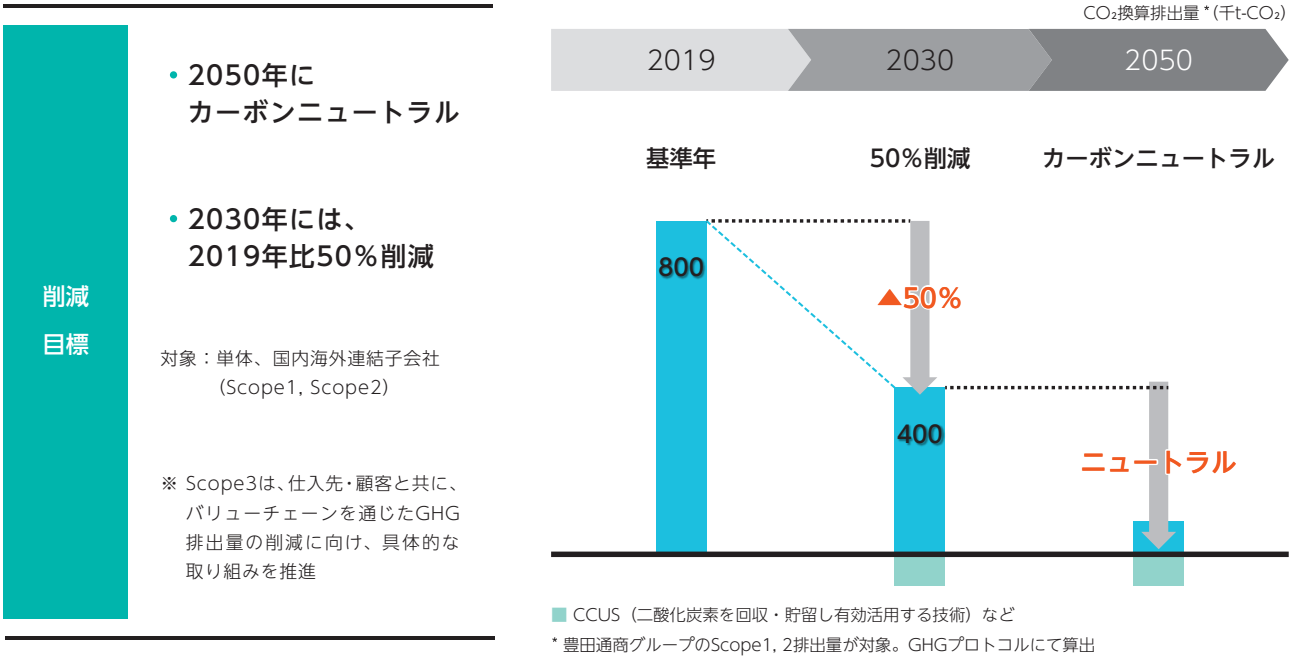
CE 資源循環・3R WG

EoL Economy Of Life WG

～カーボンニュートラル宣言～

豊田通商グループは従来からカーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現につながる事業を展開してきました。全従業員が一丸となり、カーボンニュートラル・サーキュラエコノミー社会の実現に向け、顧客やパートナーを新たな世界へと先導する存在となることを目指し、社会課題の解決に貢献していきます。

Scope 1, 2



Scope1：自社での燃料の使用等による温室効果ガス（Greenhouse Gas、以下GHG）の直接排出（石油・ガス等）
Scope2：自社が購入した電気・熱の使用によるGHGの間接排出
Scope3：Scope1, 2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

～未来の子供たちへ、より良い地球環境を届ける～

Scope 3

豊田通商グループは、「豊田通商ならでは」の取り組みによって顧客やサプライヤーとの協働により、それぞれ単独では実現困難なサプライチェーン上のGHG排出量を削減・事業化していきます。従来から得意としてきた製造・物流の効率改善や使用済み自動車・生産工程からの廃棄物の処理・再資源化に加え、近年では電動車バッテリー用のリチウム資源開発、部材供給を通じ排出量を削減するとともに、新たなビジネスを生みだしています。また、再生可能エネルギーや低炭素エネルギーの生産・供給等を通じて顧客・サプライヤーのGHG排出量を削減することにより、Scope 3においてもカーボンニュートラルの実現を目指します。

削減に向けた主な取り組み

① 製造・物流の効率化

- ・高効率物流
- ・鋼材・アルミの集約加工及び配送
- ・工場省エネ診断、各種省エネ設備の販売



② 再資源化

- ・スクラップ回収・加工事業
- ・エアバッグの端材リサイクル
- ・廃触媒回収
- ・レアメタル再資源化事業
- ・使用済みプラスチックリサイクル
- ・ELV（使用済み自動車）回収、解体
- ・中古車の流通・販売・輸出事業



③ バッテリー関連の取り組み

- ・レアアース生産事業
- ・炭酸リチウム生産事業、水酸化リチウム生産事業
- ・米国の車載用電池生産会社に出資



④ 低炭素エネルギーの供給

- ・再エネ発電、供給
- ・バイオディーゼル燃料の販売



削減貢献事業

豊田通商グループは、サプライチェーン上のGHG削減のみならず、世の中の排出量削減への貢献にも注力しています。再生可能エネルギーの供給拡大、既存商品のバイオ由来／リサイクル品への置き換え等も含め、取り組みは多種多様な分野にわたっており、新たなビジネス機会が創造されています。

カテゴリ	直接貢献		間接貢献	
	最終製品	プロセス改善	一部工程	売買
事業例	・再エネ発電 ・PETリサイクル ・再生物流資材等	・アルミ溶湯 ・高効率物流等	・水酸化リチウム生産 ・スクラップ回収・加工事業 ・リサイクル生地製造等	・バイオプラスチック／リサイクル樹脂 ・バイオディーゼル燃料 ・電動車／フォークリフト等
	 			 

削減貢献事例

再エネ発電 269万t-CO₂*

※算出方法：発電設備容量（MW／年）×24時間×365日×設備利用率×排出係数（tCO₂／MWh）×当社持分比率

